

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4072700372		
法人名	社会福祉法人 豊光福祉会		
事業所名	グループホーム望海荘		
所在地	福岡県豊前市大字松江690番10		
自己評価作成日	平成22年7月7日	評価結果確定日	平成22年8月30日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成22年7月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、小高い丘陵地にあり雄大な周防灘や緑が望め、利用者の皆さんや地域の方々も施設からの眺めに感動されています。また、園庭には、果樹、野菜、花畑等あり四季折々に利用者が楽しむことの出来る環境にあります。施設内は掃除が行き届いており、常に季節の花などを観賞することができます。また、四季に応じた飾りつけも利用者の方々や職員が和気藹々で行なっております。施設のモットーが「共に生きる」であり、利用者の方々や職員がいつも共に過ごし喜びも悲しみも共に分かち合えるような関係を築けるように日々努力しています。和やかな雰囲気での利用者の皆さんに安心して暮らしていただける施設です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

豊前市街地や周防灘、遠く国東半島までを一望できる高台に位置しており、恵まれた眺望や緑豊かな周辺環境の四季折々の彩の変化、また収穫物(畑の野菜・山菜等)の旬の味わいを共に楽しむことが出来る。老人クラブや地域の方々との活動・交流の場所としても活用される様々なクラブ活動もあり、地域社会の中で、入居者と職員が「共に生きる」ことを目標として、日々の暮らしを営んでいる。清潔感ある室内空間は環境整備が行き届き、陶芸クラブで作成された花瓶に、季節の花々がいたる所にさりげなく活けてある。入居者・家族の安心と満足を得られる場所として、地域との連携のもとに、運営推進会議や市町村への働きかけを行い、グループホームに対する信頼を高めていくよう取り組んでいる。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果				
自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
理念に基づく運営				
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「敬愛・融和・希望」をスローガンに、「やさしさをもって共に生きる」を職員意識の基本とし、また、毎日の全体朝礼においてその具体的心得を「日常の五心」とし唱和を継続している。	事業所独自の理念を基に、安心して生活が継続できるように、毎日の全体朝礼を通じて、地域に密着した意義や役割を、確認、唱和している。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	軽費老人ホーム利用者、デイサービス地域利用者と毎朝の健康体操、定期的行事等に参加を行い交流を継続している。	老人会との交流の中で、1Fのピロティを開放し、地域の住民が中心となって、木工・陶芸や書道・生け花等のクラブ活動が行われている。事業所の積極的な地域への働きかけもあり、孤立する事無く、近隣住民との活動や相談の機会が多い。防火槽設置に向けて、地域住民との連携により行政への働きかけが行われており、今年度着工予定となっている。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議へ地域の代表(区長、老人クラブ)民生委員の参加を頂き認知症ケアマニュアル等を参考にその実践等について話し合いそのことを老人クラブ等会合で伝えていただいている。	
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状取り組んでいる内容の報告を行い、意見等を頂くことを継続しており、レク等に取り入れている。	利用状況・地域行事参加を含む活動状況の報告・外部評価について・様々な安全対策(防火用水設備)等が議題として取り上げられ、意見を頂くことでサービス向上につなげている。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の委員になって頂いております。会議の参加を頂いており情報の交換や相談を行っている。	市町村との連携については運営推進会議だけでなく、認定の更新はもとより、四期ごとに広報誌「ひだまり」を発行し、入居者の暮らしぶりをパンフレットと共に配布している。
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除に関するマニュアルを整備、会議等で周知。日常は一人一人のその日の状態にあわせ安全面に配慮した見守りを基本として行い、日中は全ての鍵の開放を継続している。	入居者一人ひとりの人格を尊重し、安全を確保しながら役割を持って日常生活を送る事ができるように、玄関の施錠を含めた身体拘束をしないケアへの取り組みがある。研修計画や記録からも、入居者の安全についての検討や、身体拘束をしないケアの取り組みが確認できる。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての資料をもとに法人全体会議にて事業所内研修を行っている。	

福岡県 グループホーム 望海荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての資料をもとに法人全体会議にて事業所内研修を行なっている。	研修計画による内部研修も実施され、職員が活用に向けて、いつでもアドバイスができるように体制の整備に努めている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時は重要事項説明書にて説明を行ない、疑問点については充分説明を行い同意を得ることを継続している。		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議出席時、随時面会時利用者の代弁が出来る機会を設ける、また意見箱の設置を行なっている。	家族の要望や意見が、来訪時や運営推進会議にて気軽に発言できるよう配慮している。意見を頂けるように日常的にコミュニケーションを図り、問題点を全体会議やミーティングにて取り上げ、運営や質の向上への反映に努めている。	
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的職員会議や、日々の業務終了報告時、意見提案を聞く機会を設けている。	日々職員とのコミュニケーションを図り、ケア会議や内部研修を含め、要望や意見提案を気軽に発言できる機会がある。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者、管理者共に頻繁に現場に出入りしており業務上の問題等の相談を行いその場で一緒にできる環境にあり把握に努めていると共に、年に1回基本給等の見直しを行なっている。		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	募集に関しては公募を継続しており希望者は全て面接を行い年齢・性別等を基準として判断していない。	職員の募集、採用にあたっては、性別や年齢等を理由に採用対象から排除することはない。面接を重視し、事前に15項目の意見を参考に、自己実現できるように配慮している。	
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	定期的会議にて資料をもとに話し合いを行なっている。	定期職員会議等で議題に挙げ、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。	

福岡県 グループホーム 望海荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内において年間研修計画・実施の継続を行なっている。その他外部での研修の機会を設けている。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者及び職員は京築地区の他施設との会議(月1回)を継続しており、運営面、サービス面に関して情報交換等を行なっている。また、全国老人福祉施設協議会の加入を継続組織として参加をしている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談において現状の生活状況、その問題点、サービスに対する意向等を聞き、本人、家族同意により併設施設(軽費、デイサービスの体験)利用やその後の相談を受けている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接時充分話し合い利用意向の経緯、生活上困難な状況を聞き、今後の対応を検討している。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談において現状の生活状況、その問題点、サービスに対する意向等を聞き、本人、家族同意により併設施設(軽費、デイサービスの体験)利用や、居宅介護支援事業者との連携を行い現状に即した他のサービスにつなげている。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生きるを念頭に置き、心身の状態に合わせ日常生活上の行為、行動、動作等一緒に行なっている。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族訪問の際、近々の生活状況等の話し合いを行い、情報の共有化に努め協力関係を築いている。		
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前利用していた施設の知人や隣人、デイサービス利用時の地域の方々との交流の支援を継続している。	日常的に同敷地内の軽費老人ホームやデイサービス、地域を交えてクラブ活動などを行い交流がある。合同の行事の他、入居者一人ひとりが日常的に行き来できる環境を整備している。家族や知人への手紙や連絡が円滑に行えるよう、支援している。	

福岡県 グループホーム 望海荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援 に努めている	日々の心身の状態、その日の気分や感情等 を把握しコミュニケーションを取りながら見守り を行い活動等の参加につなげている。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等の際家族との話し合いのもと一定の 期間の居室の確保及び退院した後の対応 等相談を行い居宅支援事業所との連携によ り必要に応じ他のサービスにつなげる等の 配慮をしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	面談において今までどんな生活をされた か、今後どのような生活をしたいかを聞くよ うにしている。	入居者・家族との面談でアセスメントした要望 や意見を、日々の暮らしに反映できるように 検討し、安心して暮らせるよう支援している。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	生活歴、今までの生活習慣、サービス利用 の経緯をご家族を始め、サービス提供関係 者、可能であれば本人より情報を得るよう に努めている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	個々の日々の暮らしに係わるよう努め共 に行いその表情、言動等によりその場面の心 身の状況等の把握を行なっている。		
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	日々のかかわりの中での本人の思い等の 把握をおこない、話し合いのもと(実現可能 の是非の検討を含む)反映するように努め ることを続けている。	本人・家族とのかかわりの中で、アセスメント 情報を基に介護計画が作成されている。ケア 会議により検討され、柔軟な計画作りに努め ている。	
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルへ、食事、水分摂取量・排泄、 入浴、バイタルその他日々の状態等を記録 情報共有を行なっている。		

福岡県 グループホーム 望海荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期的受診(往診)を基本とし主治医、家族連携のもと急な容態の変化に付いては救急病院への搬送、その都度の容態の変化等に関しては随時通院介助を行なっている。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の民生委員、老人会等の訪問を頂き交流をしていただいている。		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本として本人・家族の希望により主治医の決定をして頂いており、相談の上往診又は必要に応じ受診介助を行なっている。	協力医として、倉富医院・花岡内科医院があり、本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。また、受診の付き添いや往診など必要に応じて柔軟な支援がある。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当事業所の看護職員が主となり日常の健康管理を行なっている。定期的往診、年2回の健康診断実施等において法人全体で行なうため他の事業所の看護職員との情報交換、連携を行なっており、緊急時は応援できる体制を整えている。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は現状の生活状況(ADL・認知の傷害等)、病状の変化、服薬情報等の提供を行う等を行なう。また、かかりつけ医より医療情報の提供をお願いしている。退院に関しては病院の連携室を解して情報交換相談に努めている。		
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用時に、重度化した場合全般的に医療が必要な場合を除き出来るだけの介護を行なう旨の説明を行なっている。終末期等について医療との連携を行ない、本人、家族の意向を踏まえ、状態の変化に応じ、随時対応を検討、共有し支援を行なっている。	重度化や終末期に向けた方針については、入居時の説明、及び状況の変化等に応じて家族・医療関係者との話し合いを重ね、方針を共有している。看取りに関する指針は示していないが、事業所としての最大限の支援を行っていくことを説明している。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人全体の事故発生防止のための指針に基き対応マニュアル等を整備し会議等にて掌握している。所轄消防署隊員指導による「緊急時・応急処置について」の研修、年2回の避難訓練を行なっている。		

福岡県 グループホーム 望海荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアル等による掌握、避難訓練の実施により避難経路・場所等を再確認している。	軽費老人ホーム・デイサービス・グループホーム全体で、年間行事計画に基づいて、防災訓練や防火訓練の合同訓練が行われている。訓練後の振り返り、反省点を取り上げ、今後に活かす取り組みが確認できる。地域住民との連携により、防火槽の設置に向けた働きかけを行っており、今年度着工予定となっている。スプリンクラーも設置済みとなっている。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護・個人情報保護のマニュアルをもとに研修等継続し、本人の気持ち優先の対応を心がけると共に、個人の情報等の取扱いに反映させている。	入居者の情報や個別性、プライバシー・守秘義務について、尊厳と権利を守る責任のある取り扱いや管理に努めている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人のその日の状態(声かけに対する反応や表情等)を踏まえその時々意向を確認しそれに対する支援に努めている		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一応日課を基本とするがその日の心身の状態、及び容態、意向にあわせ支援を行なうよう心がけている。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人馴染みの理・美容院へ行って頂き本人の好みの髪型等できるよう連携をとっている。その他整容、更衣等本人の意思を確認しながら行っている		
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に調理や片づけを行い心身機能の維持向上につなげている。	畑から季節の野菜や果物などを収穫したり、山菜を採ったりと、旬の食材を活用している。下ごしらえ、片付けなど、一人ひとりの力を発揮してもらいながら、雰囲気作りを大切にしている。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日一人一人の食事・水分摂取量を記録し状態の把握を行い栄養摂取や水分摂取の確保につなげている。また、利用者の好みを把握し、栄養士による献立表作成に反映している。		

福岡県 グループホーム 望海荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の状態に合わせて毎食後口腔ケア(見守り、声かけ、介助)を行い口腔内の清潔保持に努めている。また、必要時は歯科受診の援助を行なっている。		
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンや習慣、頻度等の把握し、誘導や移動介助を行ないトイレでの排泄介助に努め、排泄の失敗、オムツ使用を減らせるよう努力している。	入居者一人ひとりの排泄パターンに応じて、個別に誘導がなされ、声掛けや介助を行い、オムツに頼らない、排泄の自立に向けた支援に努めている。記録からも確認できる。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の運動(健康体操)に参加援助、毎日の水分摂取量の記録を行ない把握し、便秘予防につなげている。		
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日々の気分の状態を把握し、状態あわせ声かけや誘導を行なうようにしている。	個別性を重視した入浴支援がある。デイサービスのリフト浴などを活用し、状態に応じて個別に取り組んでいる。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、その日の体調や表情、希望を考慮した上でその状況に合わせて活動等への参加に配慮し成るべく生活のリズムを整えるよう努めている。また、活動の状況、参加者の状態にあわせ休養等も行なうようにしている。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護職員主体により個別ファイルへ、処方箋を整理し処方内容を把握しており、服薬介助、内服確認を行なっている。また、服薬による症状の変化に付いてはかかりつけ医と随時連携を行い対応をしている。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常の生活活動の中で役割を持っていただき一緒に行なっている。		

福岡県 グループホーム 望海荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>その日の状況に合わせ車椅子等を使用し屋外や併設施設への散歩を行なっている。また併設施設で行なわれる喫茶やカラオケクラブ等にも出かけている。</p>	<p>併設する施設と自由に行き来することが出来る。桜の木や果樹園・菜園に囲まれた広大な敷地内は、散歩やクラブ活動の場所となっており、季節を十分に楽しむことができる環境を有している。一人ひとりの希望に添って外出を支援している。</p>	
52		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>必要時少額の金銭を渡し、自ら支払っていただけるよう援助をしている</p>		
53		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>節目節目に直筆で書状を出していただいている。また、かかってきた電話の対応や利用者の希望により携帯電話での送受信の援助を行なっている。</p>		
54	(22)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関、ホール等その都度利用者と相談一緒に飾りつけなどを行い自分の家とってもらえるように努めている。</p>	<p>清潔感ある室内空間には、季節の花々がさりげなく活けられており、また季節に応じた飾りつけがなされている。椅子やソファが各所に配置され、畳スペースも設けられており、それぞれの方々にとってのくつろげる空間が確保されている。玄関には木工製の長椅子やオブジェ等の手作り作品が置かれている。</p>	
55		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>和室、ホール、ベランダそれぞれ、座卓やソファ、椅子等を配置し思い思いに過ごせるよう工夫している。</p>		
56	(23)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には成るべく今まで使っていた家具、身の周り品等を持ち込んでいただくようにしている。</p>	<p>本人の意向や家族と相談しながら、身近な使い慣れた思い出の品が持ち込まれ、安心して居心地の良い空間づくりに配慮している。家具の配置や手作りのカレンダーで雰囲気作りに努めている。各居室には、トイレ・洗面台が設けられており、プライバシーにも配慮された、空間となっている。</p>	
57		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>一人一人の出来ること、出来ないこと、わかることわからないことの把握に努めその状態に合わせた環境づくりを行なうようにしている。</p>		